

令和 6 年10月2日

市政担当記者各位

第 22 回 花と緑のまちづくり賞 受賞者決定について

＝ 表彰式 ＝

令和 6 年 10 月 5 日（土）10 時 30 分

福岡市植物園「一人一花サミット」会場

花と緑によるまちづくり活動に顕著な功績があり、市民共働のまちづくりに積極的に取り組む団体を表彰する「花と緑のまちづくり賞」が決定しました。

審査にあたっては良好な環境づくりに加え、他の模範となる活動について、書類による予備審査、現地およびヒアリング調査を行い、花づくり部門を令和 6 年 4 月 16 日、森づくり部門を令和 6 年 8 月 7 日に最終審査を行った結果、本年度の受賞団体が決定しました。

■ 受賞団体

＝ 森づくり部門 ＝

竹公園をまもる会



評価された点 ～地域で守るまちなかの緑地～

住宅地に隣接した長丘緑地において、自治会が中心となって危険木の撤去、歩行の妨げになる枝の剪定や小まめな点検作業を行う等、利用者への安全配慮や快適な環境づくりを心掛けている点が評価されました。2020 年からは公園の一角にある 400 m²の竹林整備も開始しており、光の差す美しい竹林へと変化してきています。また、春先には地域住民が参加する『青空カフェ』を開催し、懇談しながら自然を楽しむ機会を作るなど、地域に親しまれる環境づくりを行っている点も高く評価されました。

野河内往還の会



評価された点

～古の登山道を開通 紫陽花で地域を彩る～

登山道の整備・開通のみならず、大規模なアジサイの植栽計画により、殺風景だった斜面が現在では梅雨の山を鮮やかに飾る一帯へと変化を遂げている点が評価されました。登山道には看板や休憩用のイスも設置され、新たな登山道として登山者に浸透してきており、活動区域には 5,000 本以上のアジサイを植樹。登山口その他、道路脇や法面等、地域にアジサイが広がっています。また、毎年 2 回アジサイのワークショップを開催し、会員以外にも呼びかけ、挿し木・鉢上げ等の育苗スキルを伝えながら活動している点も高く評価されました。

= 花づくり部門 =



評価された点 ～校区を花で飾り地域が繋がる～

平成6年から樋井川沿いを中心に花植え活動を始め、平成17年の「アイランド花どんたく」のウエルカムガーデン制作をきっかけに正式に団体を結成。活動開始から31年と長く継続して活動している点や、年2回の植え替えには、自治協議会を通して校区老人クラブ、子ども会、鳥飼小学校PTAの親子が参加している点が評価されました。植栽しやすい統一したデザインと固定化した植栽計画で、会員も参加者も負担が少なく楽しく取り組める工夫がなされています。花の植栽を通して広く長く地域交流が行われ、定着化している点が高く評価されました。

「花と緑のまちづくり賞」について

- (1) 表 彰 対 象 「都市緑化及び都市公園保全美化運動並びに花と緑のまちづくりの推進に功績のあったものに対する市長表彰」の「花と緑のまちづくり地域活動功労者」を受賞した団体のうち、活動を5年以上継続している団体。
- (2) 対 象 団 体 数 花づくりの活動団体、緑の保全管理団体合わせて168団体
- (3) 審 査 詳細は別紙のとおり
- (4) 受賞団体及び総評 別紙のとおり
- (5) 発 表 方 法 等 協会ホームページに掲載するとともに、表彰リーフレットを制作します。
- (6) 表 彰 式 日時 令和6年10月5日（土）10時30分
場所 福岡市植物園「一人一花サミット」会場

■ 審 査

	工程	内容	日程	対象団体数
1	審査対象団体選出	実施要領に基づき選出	—	168団体
2	事務局予備審査	書類審査	令和6年3月	168団体→ 7団体
3	事務局調査	現地調査、ヒアリング調査	令和6年3月～7月	7団体
4	審査委員審査（花）	書類審査、現地審査	令和6年4月16日	5団体→ 1団体
5	審査委員審査（森）	書類審査、現地審査	令和6年8月7日	2団体→ 2団体

（問合せ先）

公益財団法人福岡市緑のまちづくり協会 みどり課 （担当 田代・倉橋）

T E L 092-260-8816 F A X 092-401-1384

電子メール ks@midorimachi.jp

第22回「花と緑のまちづくり賞」受賞団体

＝ 森づくり部門 ＝

■ 竹公園をまもる会

活動場所	南区長丘1丁目13-2（長丘緑地） 4, 100㎡
会員数	20名
結成	平成29年
活動頻度	定例作業月5-6回、竹林整備 12月-6月毎月、適宜剪定・伐採・間伐、草刈り・除草 3月-11月毎月、花壇整備 適宜、防犯パトロール、清掃 月5-6回以上
活動のきっかけ・目的	2017年3月の改修工事終了直後は、整然とした気持ちのよい空間が実現したが、緑地であるが故に、他の公園に比べ草木の成長やごみの散乱などが激しい為、すぐに荒れてしまうことが予想された。地域住民の手で快適な空間を維持しようという趣旨の元、この会が結成された。 美化及び安全な利用を図り、子どもから高齢者まで地域住民における安全・安心で健全かつ楽しい憩いの場となるよう、環境整備を目的として活動している。



■ 野河内往還の会

活動場所	早良区大字飯場 5, 230㎡
会員数	10名
結成	平成27年
活動頻度	定例作業月1回 他随時、登山道・登山口の整備紫陽花等の植栽、アジサイ等の育苗・研修会開催、花殻摘み：4～5回/年、下草刈り：10回/上期、伐採：1回/年（孟宗竹、梅雨明け）、自生している椿・山桜・ウツギの保全
活動のきっかけ・目的	早良区曲淵から登山を開始する市民を増やし、地域に賑わいを作り出したいとの思いで「鉄塔尾根道」を整備・開通させた。そのルートの登山口が放置竹林と藪に覆われていたため、それをすべて切り払って一面にアジサイを植栽することとした。古の尾根道と野河内溪谷を整備し、登山者や市民が親しむ安全な登山道の整備することを目的として活動している。



= 花づくり部門 =

■ 鳥飼花クラブ

活動場所	城南区鳥飼校区 樋井川沿い・ウエルカムガーデン 354㎡
会員数	60名
結成	平成17年
活動頻度	定例作業 毎週土曜日、植え替え：2回/年（6月・11月）、土壌改良：2回/年（5月・10月）、除草の頻度：随時、水やりの頻度：夏場は5～6回/月（冬は花壇の状況に合わせて）、校区内4公園の管理
活動のきっかけ・目的	花壇に花を植えようと地域住民が集まり、更に平成17年に開催された「アイランド花どんたく」のウエルカムガーデン制作がきっかけで団体として発足。 鳥飼校区において、市民が地域を花で飾り、豊かな心を育むとともに、市民相互のふれあいを深めることを目的として活動している。



入選団体（花づくり部門のみ）



■ 多田羅公園花の会
東区多々良1丁目5（多田羅公園内）



■ 美和台校区自治協議会
東区和白丘1丁目（JR福工大前駅ロータリー）



■ やよい坂花の会
南区屋形原3丁目（やよい坂公園）



■ 横浜亀齢会
西区横浜1丁目9番地内

＝ 総 評 ＝

■ 花づくり部門

福岡は春爛漫、遅咲きのサクラの下で審査会が始まり、花壇は見頃を迎えていました。今回は古いまちに永年住んでいる住民の活動や、非常に長く続けられてきた、いわば一人一花の原点のような活動が入選しています。

多田羅公園花の会の活動は8人のグラウンドゴルフ仲間がそのついでに始めたという花モリモリの花壇です。その秘訣は公園の側溝に溜まった土砂が腐葉土になっていることに目をつけ、花壇や育苗に利用しているということでした。美和台校区自治協議会は広いロータリーに学校や企業が参加してチーム制で複数の花壇をつくっており、今後の展開が期待されています。ほかにも50年近く住んでいる住民と子供会が花壇づくりを通して交流していたり、老人会だけで26年間も道路沿いの一角に花を植え続けていたりなど、まさに一人一花の原点を見る思いでした。

受賞となった鳥飼花クラブは住民が花を持ち寄って川沿いの花壇に植えたのが始まりでした。その集まりは平成17年の「第22回全国都市緑化ふくおかフェア（愛称：アイランド花どんたく）」の時に団体となり、今年31年目を迎え、現在では老人会から子供会まで参加しています。

子供たちが大人になったときに、あるいは年老いたときに、また花を持ち寄って街角に植える…そんな自然な活動がこれからも未永く続くことを願ってやみません。

審査委員長 高宮さやか



【審査委員】

- ・西日本短期大学 教授 高宮さやか氏（委員長）
- ・エコマルシェオニヅカ株式会社 代表取締役 井上盛博氏
- ・有限会社グリーンハウスベル 代表取締役 鐘ヶ江奉一氏
- ・福岡市住宅都市局一人一花推進部 一人一花推進課長
- ・公益財団法人福岡市緑のまちづくり協会 専務理事

■ 森づくり部門

今年度は森を対象として活動する2団体が受賞されました。早良区曲渕で活動される「野河内往還の会」は2015年に登山をする市民を増やすため古の尾根道と野河内溪谷の整備を目的に設立されました。震災ボランティアをきっかけとし、山岳会メンバーが中心となり、約10名でアジサイの育苗・植樹、公開ワークショップを開催されています。活動地は交通量の激しく傾斜のある斜面、登山道と村から山の尾根まで広がりを持っています。戦前から美しいと伝えられてきた往還の道と溪谷界隈を、小学校、地域、そして、他団体との連携活動に展開されてきた点が、高く評価されました。

南区長丘で活動される「竹公園をまもる会」は2017年に自治会住民を母体として設立され、約20名で活動されています。特別緑地保全地区である長丘緑地を対象に、子供から高齢者まで安全・安心・楽しい憩いの場づくりを目的に、竹林整備、草刈り、花壇整備、そして落ち葉の堆肥化などを精力的に行われています。緑地を守っていきたいという想いを繋ぎ、地域内外の人々の集いの場として場づくりがなされてきた点が、高く評価されました。

特色の異なる両団体の熱い思いが伝わりました。また、活動を長く続ける工夫、人と生き物の多様性を意識した活動の大切さも審査会で議論されました。景観づくりを支える人材育成が、さらに展開されることが期待されます。おめでとうございます。

審査委員長 朝廣和夫



【審査委員】

- ・九州大学芸術工学研究院 教授 朝廣和夫（委員長）
- ・福岡市住宅都市局公園部活用課 馬渡氏
- ・福岡市住宅都市局一人一花推進部 一人一花推進課長
- ・公益財団法人福岡市緑のまちづくり協会 専務理事